

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394100180		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ザ ストーリー東海(ワルツ)		
所在地	東海市富木島町新藤塚30番		
自己評価作成日	令和3年1月30日	評価結果市町村受理日	令和4年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2394100180-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ●コロナウイルスの感染防止に努め、消毒換気を毎食時以外もこまめに行い対応しています。 ●共同作業を大切に、生活レクリエーションを中心に自身の居室掃除、洗濯を職員と一緒にしています。 ●そろばん、文字盤、脳トレを毎日机に向かって問題を解いたり、集中して字を書き脳の活性化につなげています。 ●季節に合った行事を毎月行い、全員で喜び合いほのぼのと過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームの特徴として、特別養護老人ホームと併設していることで、利用者の様々な状況に合わせた支援が行われている。その他にも、同一建物内に保育所を併設していることで、感染症問題が起こる前までは、子どもと高齢者が定期的に交流する取り組みが行われている。ホームの建物内については、広めの空間が確保されていることで、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がとられており、利用者がホーム内を自由に移動することができる配慮が行われている。利用者の楽しみの機会が限られている中で、ホームの取り組みとして、年間を通じた入浴レクの取り組みがあり、利用者の楽しみにつなげている。また、地域の方との交流も困難になっている状況であるが、感染症対策を行いながら地域の行事に出かける機会をつくっており、現状で可能な支援が行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念「尊厳を大切にするケア」を受け止め、周りとの共存・共有・係りにつなげている。毎日業務会議、施設内研修にてその理念の共有に取り組んでいる。	ホーム独自の理念をつくり、ホーム内にも理念を掲示し、職員間で理念の内容を共有する取り組みが行われている。また、基本理念をもとに3点の行動指針と目標が掲げられてあり、理念の実践につなげる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ対策にて、地域交流は難しい。一年越しで「どんど焼き」参加ができました。今はコロナでなかなかできません。	感染症問題が続いていることで地域の方との交流が困難になっているが、ホームでは、感染症対策を行いながら地域に出かける機会をつくっており、地域の方との交流につなげている。また、可能な範囲でボランティアの方との交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナウイルスの影響で活かしていけない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二カ月に一回の予定であったが、コロナの影響にて活動報告や外部評価の結果を書面で報告を行い、ご意見を頂き活用している。コロナの影響にて開催する事ができず、活動報告を書面でやっている。	会議については、書面による実施が続いており、会議の関係者に書面を配布し、ホームの現状を報告する取り組みが行われている。また、会議については特養と連携して実施しており、事業所全体の報告が行われている。	書面による実施が続いていることもあり、今後の状況をみながら、可能な範囲で会議の開催につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営上の留意点やサービス提供について、市の担当者と連絡を取り指導を仰いでいます。最近では、コロナウイルス対策について、相談させて頂いています。(ワクチン接種他)	広域連合や地域包括支援センターとの連携については、主に併設事業所を通じて行われており、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、感染症問題が起きる前までは、共用空間を活用した行事が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回「身体拘束委員会」を開催を行い、玄関の施錠は行っておりません。2ヶ月に1回「身体拘束委員会」を開催し、話し合いを行い確認や身体的な対応方法も検討されている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、広いホーム内を利用者が自由に移動できるように配慮している。また、身体拘束に関する検討や職員研修を実施しており、現状の確認や職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	「虐待防止委員会」設け、2か月に1回どのようにすればよかった等、話し合い書面を作成しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居時に活用されている方や、必要性がある時に情報提供も実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約以前よりご家族等からの質問に丁寧に応えながら信頼関係の構築に努め、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議・外部評価・ケアプラン更新時・面接時等、さまざまな機会を作り改善点や要望についてのご意見を聞く機会を作り反映させている。面接時や外部評価等、家族の意見を聞く機会を設けている。	現状、家族との交流が困難になっており、現状で可能な範囲で面会等が行われている。家族からの要望等については、管理者の他にも併設事業所の施設長を通じた対応も行われている。また、毎月、ユニット毎に便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、運営に関する会議を行い、職員からの意見・提案を聞く機会を設け反映させている。勤務時間や勤務変更に関して話し合い、柔軟な対応を行い働きやすくしている。	毎月の職員会議や日常的な情報交換等を通じて、管理者が把握した職員からの意見等は運営法人に報告され、ホームの運営への反映につなげている。また、職員間で役割分担を行う取り組みも行われており、職員からの意見等につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員の勤務希望、生活状況を理解し就業環境の整備に努めています。職員ひとりひとりの得意分野を活かせる職場づくりに励んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設全体で研修計画を策定し、eラーニングを通して、動画による研修を自己にて行い取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修や他の事業所との情報交換を行い、参考点は取り入れているが、最近ではコロナウイルスの影響で制限しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時の情報を元に、本人の困っていることや、好きな事・性格を把握し、共同生活ができる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前、申込時に家族から困っている事、不安な事、要望に耳を傾ける良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に、本人様の状態が向いているかどうか判定会議を行い、他職員連携で話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々、寄り添った暮らしがもてるよう、本人のできる事、得意なことを把握し持ちつ持たれつ関係を築いている関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の不安や、負担を軽減できるよう可能な限りご要望に施設全体で相談し、本人を支えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様と相談の上、協力のもと関係が途切れない様に努めている。携帯電話やお守り・指輪・仏壇等、大切にしてきた馴染みの物や、大切に人とのつながりを途切れない様、支援に努めている。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には、電話を通じて家族と交流したり、利用者の希望で投票で外出する等、可能な範囲で支援が行われている。また、家族との外出についても、可能な範囲で行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	他者との交流が良好となれるよう、席の配置を重視し支え合えるような環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了しても、関係性を大切にしながら必要に応じて相談を受けております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、会話の中で本人の意向を聞いて、お気持ちに添えるよう職員間で話し合っている。以前の暮らしぶりの情報や、現場にいるスタッフ、周りとの話し合いの中で思いや意向を聞き取り、把握に努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みや利用者毎の申し送りノートの活用が行われており、利用者に関する意向等の把握につなげている。また、毎月のカンファレンスを実施し、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の日常会話の中で、以前の暮らしていたころの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子を観察し、記録に残心身の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人がよりよく暮らせるよう、家族との関係を密に以前の毎日使い慣れた物や好みの物や寝具等の情報を活かせるよう、話し合い作成している。	介護計画については、利用者の状態変化等に合わせて見直しまでの期間が異なっており、一人ひとりに合わせた対応が行われている。また、日常的にもケアプランチェック表を用意しており、定期的なモニタリングの実施につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録や実施表や申し送りノートの活用、ユニット会議でケアカンファレンスなどにより、職員の気づきより計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の意向を都度、聞き取りを行いできる限りニーズに応えることができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの影響にて制限はしております。近くにある床屋・スーパー・郵便局等、活用できるよう検討中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医への状態報告・相談を行い、家族との連絡を密に行い適切な医療が受けられるように支援している。受診は本人および、家族が希望する医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援を行っている。	協力医との医療面での連携が行われており、利用者の健康面での支援が行われている。受診については、状況等にも合わせてホーム職員による対応も行われている。また、併設事業所の看護師との医療面での連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期受診時や、往診前、異常時等相談し必要な相談指示を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室、外来病棟との情報交換を行い、病院との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期のケアについてはご家族様より書面の説明、同意を頂き意向をお聞かせいただき、主治医と連携しながらできる限りの対応を行っている。重度化や終末期について、施設としてできる事、できない事の範囲について家族に説明し、最終的に契約は看取り時期に行っている。	身体状態が重い方もホームでの生活を継続しており、特養を併設しているが、ホームでも利用者や家族の意向等に合わせた支援が行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修を設け、緊急対応について学ぶ機会を作っている。緊急時の連絡体制を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、避難訓練の為、地元消防団の協力も依頼している。年2回、避難訓練を実施しています。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。その他にも、併設事業所との合同の訓練も実施しており、利用者も参加している。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	当ホームが開設されている場所が、建物の3階であるため、利用者の避難経路の確認等、非常災害時に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入浴・トイレ利用時の声かけ等、プライバシーの保護に努めています。排泄介助を嫌がる利用者の希望に沿い、見守りのみ。	ホームで掲げている基本方針には利用者を尊重した対応を行う内容も掲げられており、職員の意識向上につなげている。定期的なカンファレンス等を通じて、利用者への対応等を意識する注意喚起等も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	毎日の服選び、入浴の支度、余暇活動等自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日1日をできる限り、お一人お一人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お好きな化粧品を毎日使用し、行事時には和服やイベントに合う衣装に着替え、おしゃれを豪華に楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食レクを週1回開催し、得意な方に下準備・盛り付け・配膳等を協力して楽しんでいます。利用者と共に一緒に料理を作り、お誕生日や、季節行事に合わせた食事、おやつ作り、お茶会等を設け楽しむ工夫をしています。	食事については、併設事業所から提供しており、利用者の身体状態等に合わせた食事形態の対応も行われている。ホームのキッチンを活用したおやつ作りや行事食等の取り組みも行われている。また、ユニットによりホームでご飯を炊いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量を記録し、飲む量や食べる量が減少傾向な時は入居前より口にしている物を家族と相談して提供したりして工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月2回、歯科往診。 毎食の口腔ケア促しやできない所を手伝っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を基にして、個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導の声掛けを行っている。排泄チェック表・排泄パターンを把握し、食前に声かけ、誘導を行いトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	利用者全員の排泄記録の他にも、利用者毎に分けられた申し送りノート等も活用しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	次年度から、厨房の業者が変更になり、合わせて調理方法も変更になる予定である。食事は利用者の楽しみでもあるため、食事の内容の充実につながることを期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳やお茶、乳製品を工夫して提供し、運動や入浴を取入れながら腸の働きを良くする工夫を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日以外にも、体調や気分等に合わせ対応を行っている。週2回、もしくは本人家族の希望に合わせ、3回入浴している。入浴を楽しめるように温度や時間、気分転換に色、香りも取り入れている。	利用者の希望にも対応しながら、週2～3回の入浴が行われている。入浴を拒む方についても、支援内容を検討する等、定期的な入浴につなげている。また、ホームでは、年間を通じて入浴レクの取り組みが行われており、利用者の楽しみにつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	気持ちよく、眠りにつけるよう日中、頭や体を動かし昼食後は適度に静養時間を設け、心地よい安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の作用、体調の変化を観察し職員全体で確認できるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割支援を行い、個々にできる事を活かし日々の活動に取り入れている。(習字・そろばん・脳トレ・新聞・食レク・昔の軍歌等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	病院受診以外、施設周辺の散歩や近くの買い物等、出かけるようにしていたが、現在コロナにて受診以外はできていない。季節に合わせたイベント行事等、毎年企画しているがコロナにて出かけられないでいる。	感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっているが、消火訓練を駐車場で実施する等、可能な範囲で外に出る機会をつくっている。また、感染症対策を行いながらドライブや初詣等に出かける機会もつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理が困難な利用者様については、任意の額をお預かりし本人の必要な物を購入できるようになっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様の意向に沿って、活用されていない入居者様もおられます。一部の入居者様は手紙や電話もできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を味わえるよう、毎月掲示物に細やかな気遣いを行っております。フロアのあちこちにソファを用意して、かわいいと思えるぬいぐるみ等を置き、一緒にくつろいだり壁に自分の書いた習字の作品を展示したり、足のマッサージ機を行いながらくつろげる工夫をしている。	ホーム内は広めの空間が確保されており、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつくられている。リビングに植物を配置したり、季節に合わせた飾り付けを行う等、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	足のマッサージ機や、席を離れて座れるソファを工夫して設置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	心地よく過ごせるよう、居室に個人の椅子、寝具や使い慣れた物をそのまま使える工夫をしています。家で使っていた寝具や、掛け時計・目覚まし時計・テレビ・椅子・テーブル・髭剃り・写真等が持ち込まれ居心地よく過ごせる工夫をしている。	居室については、様々な家具類の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の居室の方もあり、利用者毎に合わせた対応が行われている。また、ベッドの設置が行われており、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	お一人お一人の「できる事」を「自立」に向けて、洗濯干し、たたみ、食事の準備、新聞たたみ等を声掛けし安全に送れるよう、工夫をしている。		